

一西だより



豊川市立一宮西部小学校通信
令和 8年 7月 6日 第9号
発行 校長 村上謙一

【自律と当事者意識】

神奈川県で保護者向けに開催されたワークショップの記録から、その一部を紹介します。

・・・子どもが泣きながら帰宅し、「〇〇ちゃんにぶたれた」と言ってきたらあなたはどのようにしますか。

「すぐに学校に電話し、いじめだと訴え、相手の保護者への謝罪を求める。」実はこれは、悪い例です。なぜなら、保護者が全てを解決してしまうことは、子どもの「他律」を助長し、自ら解決(自律)する機会をうばってしまうからです。

「どうしたの？どうしたいの？」
と、こどもが自ら考え、決定できるような声かけを・・・



子どもたちを自立した学び手とするため、本校もおおむねこのような支援をめざしています。大人が介入して解決してしまうと早いのですが、それでは子どもたちが当事者として自ら解決する機会をうばってしまうことになります。学校は失敗から学ぶところですから、やりなおしが多い人ほど当事者意識と自律したマインドをもちとって、自立した学び手に近づけます。

学校でのトラブル(失敗)について、ご家庭へのご連絡が遅くなることがあります。その場合の多くは、「当事者の自分が、どう解決するか」に時間と手間をかけているとお考えください。

【卒業生の言葉から】

今春開学した県立高校附属中学校に進んだ卒業生が校長室を訪ねてくれました。「校長先生、附属中がやっているチーム担任制も、プロジェクトも、一西小の卒業生にとっては経験していることでした。」と笑顔で語ってくれました。

本校は主体性と当事者意識を育む手段として、チーム担任制やプロジェクトなどに取り組んでいます。きっと、両校のめざす子どもの姿(目的)が近いところにあるのだと思います。

【プラネタリウム鑑賞】

6/18(木)4年生が豊川市ジオスペース館で星の動きの学習を進めました。

【6/22 いじめ・不登校対策委員会】

本校では、いじめ・不登校対策について、全教職員が参加する委員会を定期的に行っています。発生した時ばかりでなく、アンケート調査の結果を踏まえて、最近の様子を確認したりして、組織的に早期発見・早期対応できる体制を整えています。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家から学ぶなど、教職員個々の専門性を高める場として開催することもあります。

【砥鹿神社見学】

6/19(金)、3年生が教室を出て自分が住む町の学習をしました。三河地域を代表する歴史と伝統のある神社を守り続けた先人の営みにも思いをはせたいものです。



【プロジェクト】

台風6号の影響で順延となっていた逃走中プロジェクトが6/24(水)昼放課に開催されました。私もハンターとして参加しましたが、捕獲0でした。倒れるかと思いました。小学生の走力・持久力・俊敏性、あなどれません。



他にも、UNO 大会プロジェクト、体育館ミニゲームプロジェクト、学校新聞プロジェクト、コイ池をきれいにしようプロジェクトなど、多くの主体的な活動が日常的に展開されています。